

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体育)／賀川 昌明

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

平成23年度は、学部生対象の授業として「体育心理学Ⅰ・Ⅱ」、大学院生対象の授業として「体育・スポーツ心理学研究」「体育・スポーツ心理学演習」「教育実践フィールド研究」を担当する。
これらの授業においては、今まで教育実践現場での具体的な事例を引用しながら解説、説明するとともに、受講生の体験に基づく省察を重視した授業展開を行ってきた。その結果、いずれにおいても受講生から高い評価を得ている。今年度も、今まで同様に受講生の発表や自己分析を行う場を数多く提供し、他の受講生との相互作用を促進するような働きかけをしたい。また、成績評価においても、単なる知識量だけでなく、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力も対象にした評価を重視したい。

2. 点検・評価

平成23年度は学部生対象の授業「体育心理学Ⅰ・Ⅱ」、大学院生対象の「体育・スポーツ心理学研究」「体育・スポーツ心理学演習」を担当した。これらの授業においては、教育実践現場での具体的な事例を引用しながら解説、説明するとともに、受講生の体験に基づく省察を重視した授業展開を行った。
その結果、受講生の授業評価では「体育心理学Ⅰ」で4.3、「体育心理学Ⅱ」で4.4、「体育・スポーツ心理学研究」で4.6という平均評価点となった。これらのことから、本授業において担当者の取り組みが一応の成果を収めていると思われた。また、受講生の自由記述においても、この得点を裏付ける内容が示された。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

23年度は大学院長期履修生(L3)3名と新たに入学する院生(L2・M1)の指導が予定されている。長期履修生の場合、修士論文作成に向けての指導とともに教員採用試験に向けての指導も必要となる。修士論文作成に関しては、フィールド研究をメインとした課題が多いため、学外に出向く機会が増加することと思われる。また、教員採用試験対策についても、修士論文作成や学部・大学院の授業履修の合間を縫って実施する必要がある。入試企画担当副学長としての職務との関係で、時間調整等に苦勞する可能性があるが、指導学生にとって満足できる成果が得られるよう努力したい。

2. 点検・評価

平成23年度は大学院長期履修生(L3)3名と新たに入学した院生(M1)3名、今春からゼミ活動に参加した長期履修生(L2)2名、計8名の指導を担当した。

最終年度のL3生3名は、いずれも教員採用試験を受け、そのうち1名が第一次試験に合格したものの、最終的には全員不合格となった。M1生3名のうち2名は現職教員であり、もう1名はすでに他県の教員採用試験に合格し、登録延長の措置を受けて入学している者である。したがって、これらの者は教員採用試験の心配はないものの、残りのL2生2名については、修論作成に向けた課題研究とともに教員採用試験等に向けた指導も行った。

その結果、最終年度のL3生は無事に修論をまとめ、修了することができた。また、在校生5名についても順調に研究活動を行い、2月に開催されたコース内での中間発表を終えることができた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

昨年度末より開始した本学修了生との共同研究(大学体育授業におけるレジリエンス育成の試み)をまとめ、関連学会で発表するとともに論文として纏めたい。また、今までに行ってきた徳島県国体選手に対する心理サポート研究も継続実施し、その成果を関連学会において発表するつもりである。

2. 点検・評価

本学修了生との共同研究「大学体育授業におけるレジリエンス育成の試み」については授業実践を行い、鹿屋体育大学で開催された第62回日本体育学会においてポスター発表を行った。また、その基礎分析に関するデータについては「大学体育授業におけるレジリエンス育成の試み—女子大学生における身体活動状況と心理的特性との関連—」として論文に纏め、本学研究紀要第27巻に投稿した。

徳島県国体選手に対する心理サポート研究については、今まで使用してきた「心理的競技能力検査」の改訂作業を進め、その中に「レジリエンス」や「時間的展望体験」の測定尺度も入れた「スポーツ選手の心理的特性検査」を作成した。この検査に関しては、尺度の信頼性・妥当性を確認し、県内スポーツ選手の心理サポート活動に活用するとともに、その内容を本学情報基盤センター紀要「情報教育ジャーナル第9号」に投稿した。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

入試企画担当副学長の職務として、念願である大学院学生定員充足に向けて、最大限の努力をしたい。また、大学院入試事務の適切な遂行に努力するとともに、副学長職に関連する各種委員会等の運営に対して積極的に参加したい。さらには、所属する芸術・健康教育部や保健体育教育コースの円滑な運営に対しても協力したい。

2. 点検・評価

入試企画担当副学長の職務として大学院学生定員充足に向けて各県教育委員会への訪問を行うとともに、近隣の大学や関係者の勤めている中部地区・関東地区の私立大学を訪問して本学大学院受験を依頼した。また、学長・理事とともに本学教員に対する聞き取り等を行い、大学院学生定員充足に向けての方策を検討した。

大学院入試委員会委員長の職務としては、本年度の大学院入試実施に関わる各種懸案事項を検討し、公正かつ円滑な入試事務の実現に向けた諸策を実施した。

その結果、大学院生の定員充足に関しては今までの2番目の入学率が確保されたものの、定員充足には至らなかった。入試事務に関しては、大過無く実施することができた。

所属する芸術・健康教育部や保健体育教育コースにおける会議には、入試関係業務との重複がない限りほとんど出席し、教育部やコースの運営に協力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校園が開催する各種研究会には積極的に参加したい。また、今まで担当してきた徳島県小学校体育連盟顧問、日本スポーツ教育学会理事も継続担当し、関連教育団体や学会の教育研究活動に貢献したい。また、本年度から担当する徳島県体育協会理事の役職も積極的に遂行し、徳島県におけるスポーツ活動の振興に寄与したい。

2. 点検・評価

附属学校園が開催する各種研究会には、入試業務や学会参加等が重なったため参加できなかった。徳島県小学校体育連盟顧問、日本スポーツ教育学会理事は継続担当し、関連教育団体や学会の教育研究活動に貢献した。特にスポーツ教育学会に関しては、23年11月12・13日に第31回日本スポーツ心理学会を兵庫教育大学神戸サテライトで開催し、その組織委員長を務めた。また、本年度から担当することになった徳島県体育協会理事およびスポーツ科学委員会委員長として、徳島県におけるスポーツ振興に寄与した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)